

# 農業体験学習（米づくり体験）

本地区では「農業体験学習」の一連の活動として地元小学生を対象に農業用水の水質調査、二級河川西目川の魚類生息調査、カントリーエレベーターの見学、親水公園の清掃、そして、米づくり体験を毎年実施している。

米づくり体験は小学校5年生が主体となって播種、田植え、生育観察、稲刈り、自然乾燥の各工程を実体験を通して学習活動をしている。

田植え、稲刈り、自然乾燥は昔ながらの手作業で行ない小学生の他、幼稚園、一般関係者も一緒に活動をしている。又、一部機械移植をし、小学生を乗せ機械作業を実感させている。更に自然乾燥では、刈り取った稲を小学生、幼稚園児が運搬し、棒杭による自然乾燥をしている。

体験学習田は西目小学校の近くの県道沿線に位置し、学習田はパイプラインかんがいで、農道は舗装されており、作業環境も良く楽しみながら作業を進めている。又、作業時には子供の保護者も多く集まり、作業にも参加している。

自分達の作業で収穫した貴重な自然乾燥米は、学校での試食と給食用に活用している他、西目出身の「東京ふるさと会」で試食用として利用している。

東京の試食会用に使用している袋には作業中の子供の写真を貼り、体験学習により収穫したふる里の米であることを表示しており、好評で米の消費拡大の役割を果たしている。

又、この体験学習により農業に対する関心と環境に対する関心も深まってきているので今後も継続したい。



活動体制	
実施主体	西目環境保全活動の会
後援・連携	水土里ネット西目（西目土地改良）、J A秋田しんせい西目総合支店、由利本荘市役所西目総合支所 稲作研究会、A S T農場、西目小学校、西目幼稚園、年長児保護者
実施期間	平成24年4月16日（播種）、5月15日（田植え見学）、6月26日（稲の生育観察）、9月26日（稲刈り）
参加者	西目環境保全活動の会5名、水土里ネット西目2名、J A秋田しんせい2名 由利本荘市役所西目総合支所3名、稲作研究会3名、A S T農場2名 西目小学校職員4名、5年生56名、西目幼稚園職員5名、年長児57名、年長児保護者57名
報道関連	由利本荘市C A T Vセンター
活動実施年数	3年目（H22年～）
連絡先	〒018-0604 由利本荘市西目町沼田字西潟356-3 西目土地改良区 TEL. 0184-33-4666
その他	さなえ賞（H23）

## 【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西目（三浦 昭夫）

○活動の目標及び達成率	目標 地域農業に対し関心を深める 達成率 100%				
○活動に対する評価	・屋外での活動であり天候に左右されるため小学校の授業時間の調整等、難しい面もあるが、「農業が基幹産業である」ということに対する関心と環境保全にも関心が深まってきた。又、継続して実施することにより地域農業の発展に寄与できると思っている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	市の広報を活用している
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員以外にも非農家参加もある	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	この運動に理解が出てきている	①他組織との連携構築	A	連携が強くなっている
2. 活動の意匠性について			②地域住民等の理解	A	徐々に深まってきている
①基本理念の設定	A	農業への関心を深めることに主眼をおいて取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	繋がりが出ている
②地域の歴史等の伝承	B	体験学習の部門毎において先人の思いを伝えている	④運動の地域づくりへの関わり	A	運動が地域から期待されている
③運動の先駆性	A	体験学習全体の取り組みとしてはあると思っている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	大いに貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	A	成果が徐々に浸透してきている
①運動の継続性	A	今後も継続して行く	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	徐々に広がりが出ている	・天候により日程が左右されることもあるが、この活動が体系的なカリキュラムにより学習の一課程となれば更に効果が出てくると思われる。又、後継者の育成にも繋がると思う。		
③運動の計画性	A	年度当初に計画について学校側と話し合いをしている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他